

右派ポピュリズムと対決する

日本政治の正念場！

日時：9月20日（土）午後1時（12時30分開場）～5時

場所：明治大学駿河台校舎 研究棟2階第9会議室

資料代：1,000円（学生500円）

【講師1】白井 聡さん（政治学者、京都精華大学准教授、1977年生まれ）

ウェブ番組（デモクラシータイムス：YouTube、エアレボリューション：ニコニコ生放送）主要著作：『永続敗戦論』『武器としての資本論』『ニッポンの正体』他

テーマ：右派ポピュリズムの台頭と資本主義社会の持続可能性への懐疑

2025年7月の参議院選挙では、自公与党が大敗を喫して過半数議席を失ったが、その原動力となったのが参政党であった。同党は、欧米ですでに何年も前から有力になっている右派ポピュリズムの本格的な出現である。こうした傾向が同時発生することには共通の背景があり、ひとことで言えば、それは資本主義社会の持続可能性に対する強い懐疑である。それがかつての社会主義を求めた運動とは異なった形で現れている。その内容を国際的及び国内的視点から解析したい。

【講師2】住沢博紀さん（デジタル機関紙『現代の理論』代表編集委員、自治体議会政策学会会長、日本女子大学名誉教授、1948年生まれ）

1973年～1988年西ドイツ滞在、フランクフルト大学博士号取得
専門分野：欧州社会民主主義論、地域政党論

テーマ：20世紀の自由民主主義への収斂から21世紀の拡散する民主主義へ

21世紀の現在、民主主義は権威主義から国民国家の枠組みを破壊する地域自立主義と国家を超える民主主義、さらには疑似独裁化（アメリカ）から伝統的自由主義まで、共通理念を喪失した民主主義の多様性に病んでいるが、金融情報の資本主義グローバル体制は残る。日本は何をすべきか。20世紀の自由民主主義と国連憲章の遺産である、日本国憲法の理念を国民レベルで再確認し、国際協調の実績を最大限活用する政治を実現したい。

主催 メディアネットちきゅう座

（代表 合澤清）

問合せ先：

chikyuzanet@shintoshin.nir.jp

